



むかしの頭で診ていませんか?

循環器診療を スッキリまとめました

村川裕二 編

● A5 頁248 2015年

定価：本体 3,800 円+税

[ISBN 978-4-524-25811-6] 南江堂刊

循環器診療における問題点について抵抗なく読めるようにエッセイ風の文調で書き綴り好評を博している『あなたが心電図を読めない本当の理由』や『循環器治療—この薬をつかう本当の理由』などの著者である村川裕二先生が構成・編集に腕をふるった快著である。おおよそ循環器病の臨床は不整脈、虚血性心疾患、弁膜症・心不全などそれぞれ専門性が高く、また新しい治療薬やデバイス、治療法なども次々と導入されており、循環器専門医といえども自信をもって診療することができる守備範囲は限られる。しかしながら、近年、高齢化とともに循環器疾患の危険因子となる生活習慣病を有する症例も増加しており、循環器を専門としない臨床医もさまざまな循環器疾患を合併する患者の診療にあたる機会も多くなっていると思われる。本書はそのような場合に起こってくる多くの疑問点に対し、明快な解決と解説を示している。

本書の優れた特徴は、まず、構成が従来の系統的な枠組みにとらわれずオムニバス形式となっており、どこからでも読みやすいという点である。循環器の本を読むときに、心血管系の解剖や心筋細胞の電気生理から入るのでは辟易することが多いのに対し、本書はどこでも本を開いた所から興味をもって抵抗なく入っていくことができる。また、各チャプターの最初に「結論から先に」として臨床医が認識しておくべき必要最小限の情報が箇条書きで示されており、読者はその根拠と解説をあらかじめ答えがわかった状態で読み進んでいくことになるため、理解が容易になっている。そして、最後に「Take Home Message」としてチャプター全体のエッセンスが明示されている。実際の画像やまとめの表、エビデンスを示す図などが随所に配置され、視覚的な理解を促す配慮がなされている。

近年、循環器に限らず各分野において診療方針を決

定するに際しては、EBM(evidence-based medicine)を実践する方針が推奨され、臨床試験によるエビデンスに基づいて構築されたガイドラインを参照することが多くなっている。しかしながら、実際に臨床において患者の診療を行う場合には、エビデンスとともに個々の症例に特有の病態を考慮し、これに即した診療指針の適応を考えるべきである。すなわち、「エビデンスは確立されていないが、治療を行わなくてよいのか?」、「ガイドラインでは推奨されているが、この患者に適用できるのか?」などの疑問に直面する場合も、しばしば経験される。例えば、狭心症の診断で胸部症状は落ちているが、漫然と硝酸薬の投与が続けられているような症例はよく経験される。このような症例に硝酸薬投与を継続してよいのか、長期的な予後についてエビデンスはあるのか、というような問題に対し、本書では最新のエビデンスの解析に基づいて明解なメッセージが呈示されている。

本書では、このような、実地臨床において遭遇することがあるような33の問題について、臨床試験の成績や実際の症例のデータを示しながら、わかりやすい解説が加えられている。もちろん、序文で述べられているように、取り上げられた33の問題で循環器領域のすべてがカバーされるわけではないが、「出会う可能性が高い」問題が優先して選ばれているため、本書を通読すれば循環器疾患に関し日常臨床において経験されるさまざまな問題のかなりの部分が解決されることは間違いない。循環器を専門とする医師にとっても、前述したように守備範囲を外れる問題については、今一つ確信をもてないまま診療を行っている場合があると思われ、本書で知識を整理して理解を深めることにより循環器診療をレベルアップすることが期待できる。